

令和7年度 第5回「白山市ミライ会議」会議概要

日 時:令和7年6月24日(火) 19:00～

場 所:尾口コミュニティセンター

参加者:8名

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。



◆ まずは防災事業としてオリジナルの災害避難カードを作成して避難訓練をしています

(参加者)

コミュニティセンターや地域コミュニティ組織の活動が始まりました。まずは一次避難場所へ集まる具体的な訓練として、尾添では尾添の、瀬戸では瀬戸の避難所で「防災集会」という名称の会を開催しています。今年は2年目にあたり、6月20日に同場所で開催しました。今度は27日に、尾添と瀬戸でそれぞれ行う予定です。

その中で感じたのは、地域の皆さんの防災意識がまだ薄いということでした。どうすれば取り組んでもらえるかを考え、今年は「災害避難カード 私の情報」を作成しました。来場された方に配布し、氏名・電話番号・持病や服薬の有無・家族の連絡先などを記入していただきます。センター職員とともにカードのサイズや耐水性のある用紙にすること、首から下げられる仕様にすることなどを工夫しました。いざというときはこれを首に下げて避難していただければと考えています。声を出せない場合に備えて笛も付けており、地域の防災意識向上に向けて取り組んでいます。皆さんに防災意識を持ってもらおうということで、毎年地区の人に関心を持ってもらうにはどうしたらいいかを考えて取り組んでいます。

(市長)

いろいろな所を回っていますが、これは初めて見ました。災害時には声も出ないので、笛は良いですね。そしてこの紙は濡れに強いんですね。細かなところまで配慮されていて素晴らしいです。

◆ 少なくなった子ども同士をつなぐための事業を企画しています

(参加者)

昔は子ども会で海へ行ったり、出かけたりしていましたが、近年そのような事業はやっていないということでした。今年は子どもたちを募集して小松市へ出かけ、良かったと好評でした。子どもの数が減り、隣の集落には子どもがいても、わが集落には自分の子どもだけ、という状況になっています。かつては境内で遊んだり、道場の周りの草むしりをしたりといった地域での体験やつながりがありましたが、現在の子どもたちはそうした機会に触れることがほとんどありません。地域のつながりが途絶えつつあるため、繋げていきたいと考えています。みんなが集まれるような取り組みを進めていきたいというのが今年の目玉かなと思っています。

◆ 防災面と、住民の交流のために、コミュニティセンター施設の充実を希望します

(参加者)

防災について特に感じたことは、女原・東二口が地滑り地帯であり、土砂崩れが起こりやすい集落だという点です。しかし現在の一次避難場所が道場になっているのが気がかりです。女原の道場へは坂を上らなければならない、いざ雨が降ったときには坂を上るのは非常に困難になると思います。東二口も同じで、集落全体がすでに危険ではないかと感じています。

そこで、皆がどこに集まればよいかを考えた結果、皆さんがよく集まっているコミュニティセンターに来ていただくのが望ましいと考えました。コミュニティセンターは雨や洪水警報などの情報が入りやすく、情報収集もしやすい場所です。また、調理室があるので避難された方に簡単な食事提供もできると思います。

可能であれば、コミュニティセンターを避難場所として整備・指定していただけないかなと思っています。

(市長)

白嶺小中学校や国際高専は避難所になっていませんか。

(参加者)

白嶺小中は二次避難施設になっていますし、国際高専も非常時は受け入れということになります。

(参加者)

コミュニティセンターでサロンや体操の事業をしていて、マットを敷いて床体操をすることがあり

ますが、15 人が入ると手狭になります。少し運動したり、何かゲームをしたりするとすぐに場所が足りなくなり、その点が悩ましいです。

足腰を動かしましょうと言っても、隣の人にぶつかりやすかったり、折りたたみ椅子を使っているので転倒や指をはさむ危険があったりするので、そのあたりの安全対策も考える必要があると思います。

(市長)

避難場所は、災害によってそれぞれ指定されています。尾口コミュニティセンターも台風の接近や長時間の大雨が予想される際には事前に自主避難所が開設される施設および予備避難所となっています。

東二口、女原ともに道場は土砂災害警戒区域にあり、大雨の時は危険です。雨は地震と違って天気予報を見ればある程度予測可能ですので、市からの避難情報に注意し、早めに尾口コミュニティセンターや白嶺小中学校へ避難するようにしていただければと思います。

また、尾口コミュニティセンターの建物については平成 26 年度に改修を行ったところで、現在改修の予定はありませんが、備品については安全面も考慮して検討していきますので、センターで内容を整理していただいて、協働推進課にご相談ください。

◆ 地区内にスポーツ施設がなく、健康づくりの場所が近くにあったらと思います

(参加者)

尾口地区でスポーツなどをしようとしても、広場がなく、ほとんど何もありません。かつては現在の国際高専の敷地内にある芝生をお借りしてグランドゴルフをさせてもらっていましたが、今は利用しづらく、運動できる場所がありません。できるのはスキーくらいです。

(参加者)

3～4年前、瀬女スキー場跡のリフト乗り場付近の土地を、地域のスポーツ団体でサービスセンターに貸してほしいとお願いして、草を刈って開拓・整備しました。しかし地盤は砂地ではなく泥で、雨が降るとぬかるんでしまい、茅の根が取り切れずに地面がごろごろしている状態で、結局は使えませんでした。水はけも悪く、ボールも飛ばないため、最終的に吉野谷の場所を借りることになりました。

尾口地区では、健康づくりや運動のための場所はほとんど借りなければ確保できない状況だと感じています。あまりおねだりはしたくないのですが、やむを得ずお願いしなければならないと思っています。

(市長)

活動する場が近くなかなかないんですね。白嶺小中学校は重要ですね。丸山公園や瀬女コテージ村はどうですか。

(参加者)

白嶺小中学校については、平日の日中など児童が利用するため体育館は利用しにくいことなどもあって、現在はあまり利用していません。丸山公園の昔野球場があった所は国交省に貸しており、そこより上の方には公園等の運動できる広場がありません。コテージは人気があります。

◆ 道路管理が行き届いておらず、荒れてきているのが気になっています

(参加者)

特に気になっているのは地区が荒れていることです。市道・県道、そして歩道について、整備や清掃、草刈りがほとんど行われていない状態が続いています。中でも瀬女トンネル両側の歩道は雑草が繁っており、1メートル以上に達する箇所もあります。表現が固いかもしれませんが、私はこの状況を非常に憂慮しています。

3年ほど前から、この歩道の草刈りはシルバー人材センターで年1回していただけるようになりました。ただ、それでは不十分で、この歩道の草刈りや清掃を、少なくとも年2回ぐらいやれば、大変きれいな歩道になるのではないかなと思います。

この歩道、県道や市道側は道の駅瀬女のお客さん等も利用していますし、国際高専の学生さんたちも地域視察で春と秋ぐらいに吉野谷近くまでこの道を通ってやって来ます。他にも県白山ろく少年自然の家の子どもたちも、歩道を使って追跡ハイクの活動に利用しています。

そういったことを含めて考えると、道路や歩道の清掃をやることは、訪れる人々に明るく整った印象を与え、地域のイメージ向上につながるはずです。世界ジオパークの認定を受けましたし、地区にとっても、明るい雰囲気が出されて良いような気がします。我々もできることは協力して、やっていきたいと思います。

また、地区にはサルやイノシシが出没しており、歩道自体は比較的問題ないものの、特に国道157号線の山側路肩の管理が行き届いていない箇所が目立ちます。山側の斜面管理が不十分のために土砂が路肩に落ち、それに草が生えるという悪循環が起きています。昨年、草刈りに参加した際にその状態を確認しました。今年は大門園前で舗装のやり替え作業が行われていて、山側の路肩の土を取り除くことで道路が広く見えるようになっていました。

観光地としての側面も考慮すると、道路や歩道の清掃・整備は地域づくりの一環として非常に効果的だと思います。利用者の多い歩道については、年2回程度の草刈り・清掃をシルバー人材センターなどをお願いできればいいのではないかなと思います。

(市長)

瀬女交差点から瀬女トンネルに向かう道路は市の管理で、年 1 回シルバー人材センターに委託して草刈りを行っています。おっしゃる通り、皆さん方はもちろん、観光シーズンには多くの方が利用していますね。大変重要な道路ですので、草刈りや土砂の撤去など、状況を見ながら、街路樹のせん定などとも合わせて、対応したいと思います。

また、国道 157 号線は基本的に県の石川土木総合事務所が管理しています。いずれにしても、具体的に気になる場所があれば、現地を確認したり、県に情報共有したりいたしますので、担当課(鶴来支所総務課)までご連絡いただければと思います。

◆ 観光客も多いハーブロードの花壇は地区でも手入れしていますが、土の入れ替えなど大きな作業をお願いできませんか

(参加者)

関連して、道の駅瀬女の前にあるハーブロードの花壇は、尾口地区のメインストリートみたいなもので、県内外から道の駅へたくさんのお客さんが来ます。地元の私たちも散歩コースだし、来週あたりはラベンダーがとてもきれいです。

ここは老人会のボランティアで年に 2 回ほど草むしりをしています。老人会も高齢化や人口減少で、なかなか管理ができなくなってきましたし、古いラベンダーの株の根が強く草が取れません。20 年以上経っているので、土を一回入れ替えてもらったらいいいのではないかと思います。まちづくり協議会の予算やコミュニティセンターの予算では足りません。

県外から来た方にも、白山市って良いところがあるなって思っただけのように、これから市のほうで整備していただいて、ハーブロードを持続できないかお願いしたいです。

(市長)

観光客などにお越しいただいて、地域を見たときの雰囲気良く、整然としていると気持ちがいいので、そこにまた行こうかなと思ったりします。道の駅の辺りは観光客がとても多く、賑わっていると思います。お越しになっている方への心理面で、ハーブや美しいものがあるのは大切だろうと思います。ハーブロードはいいですね。

花壇については、国道を管理している県と協定を結んで、市が年間を通じて管理をしています。それに加えて年 2 回老人会の皆さんに草刈りのご協力をいただいております。平成 28 年にハーブを植え替えたようですが、様子を見ながらまた土の入れ替えのタイミングなどは考えていかなければいけないと思います。どれだけやれるか分かりませんが、今後も地域の皆さんのご協力を得ながら、また考えさせていただきます。

アサギマダラのところも世話をしていますよね。去年は暑かったので少なかったと聞きました。

(参加者)

昨年は暑さのために蝶の数が少なかったです。今年も暑くなるということでマーキングの時期を1週間ずらしました。暑いと難しいです。フジバカマの後はヒマワリを皆さんに手伝ってもらって植えました。

(市長)

尾口の地域コミュニティ組織は環境づくりを一生懸命にやってらっしゃるのが素晴らしいなと思います。先ほど子どもの話もありましたが、そういう環境は子どもに良いと思います。

◆ 林道の復旧をお願いします

(参加者)

瀬女のスキー場の上の方の多くは女原区の所有地です。現在、用地買収に関する説明会が開かれ、これまでに6回ほど丁寧な説明を受けていて、そろそろ判断する時期となっています。あの場所は昔から女原区が出づくりしてきたところで、住民は非常に愛着を持っています。

この土地は国が資金を全額負担して植林している場所です。5年ほど前、杉が40年を経過したため売却する必要があるという話が出て、一度売却しました。本来はその売却金で再び植林して循環させていくのですが、現在は杉を売っても手取りが10数万円程度しかなく、ほとんど利益が出ないため、山に入ることもほとんどなくなっています。

2年前の大雨で長い林道がかなり崩れました。先日、国から「5年前に植林した木が倒れていて、杉を起すための予算が付いたということで、6月10日に業者が入り杉起こしを行いました。私もそのとき現地を確認しましたが、林道の途中にあるヘリコプターの発着場までは直してもらっているものの、その先は通行できない状態です。大きな崩れではないものの、捲れ上がっていて、水の流れになってしまっています。現場へは林道を15分ほど歩いて行きました。その程度であれば碎石(バラス)を入れて踏み固めれば通れると思われましたが、今年は急な対応となり重機が入れなかったため徒歩で向かいました。

林道には水道管も通っており、女原区にとって非常に重要ですが、土砂崩れは今もそのままです。お願いが多くなり恐縮ですが、可能な箇所から順次対応していただければと思います。大規模な工事は必要なく、碎石を入れて踏み固める程度で作業車が通れるようにしていただけると助かります。

(市長)

その林道を上ると、NTTドコモのアンテナ無線機の中継局があります。本当は林道を早く通行可能にする必要があり、中継局の機能維持のことも気にかかっています。

実は、令和４年８月４日の豪雨で林道が大規模に崩れていて、正直なところ多くの箇所がまだ復旧していません。林道は本当に、早く修復しなければならないと考えています。

最近の災害では雨の降り方が極端です。一昨日の消防訓練の日は日中が非常に暑かったのですが、夕方になってバケツをひっくり返したような激しい雨が降りました。気象台の台長からは大雨で危険なときに連絡が入るのですが、その際は白峰の旅館の近くで集中豪雨が発生していました。白山ろくでは、集中豪雨による山崩れや土砂災害がよく起きています。

◆ 簡易水道も上水道と同一料金になりましたが、依然として水が濁ることがあるので気になります

(参加者)

水の話が出たので、水道料金についてお話しします。白山ろくでは、三段階で平野部の水道料金と統一されました。当初は「段階的に料金を引き上げ、最終的に統一するときには濁りがないようにする」「上水道並みに整備するので料金も統一する」というような説明でしたが、現状では簡易水道の状態の上水道並みの料金を徴収されており、年に何回か水が濁る日があります。

これは、簡易水道のまま上水道並みの料金となった、という点が不満となっています。以前は、濁りに対して「簡易水道だから料金が安く、その分我慢してほしい」という説明をされてきていました。こうしたことを踏まえると、なぜ白山市全体で料金が統一されたのか、疑問が残ります。

濁りについては、以前に比べると極端にひどくはなく、浴槽に水を張るとわかる程度で、コップ一杯程度ではわかりません。濁る原因はわかりませんが、対処していただきたいと考えています。

新聞にもありましたが、これから水道管などを計画的に改修してインフラ整備を進めていただきたいと思います。

(市長)

白山市の水道管は石川県の中で最も大規模です。水道管と下水管の多くが老朽化しており、今回の地震の液状化で美川地区や松任の八田地区で一部傷んだ下水管があります。

古い下水道管はひび割れや陥没が発生しており、順次修繕を行っています。ただし、被害が起きてからその都度対応していると時間がかかるため、計画的に段階を踏んで整備を進める必要があります。そのため、水道事業は水道独自の会計で運営し、その予算の枠内で優先順位を付けて整備を行っています。

白山ろくでは、施設数も多く、当然老朽化も進んでいますが、こちらも順次整備しています。

水道の濁りに関しては、様々な原因が考えられるそうです。今後、濁りのあった場合には、担当課(鶴来白山ろく上下水道課)までご連絡いただければ、職員が現地で確認するなどの対応をしますので、お知らせください。

◆ 子どもの減少について

(参加者)

子どもは少ないものの、子どもと一緒に行う行事はいくつかあります。コミュニティスクールとして「白嶺っ子スキー教室」を開催しており、白嶺ならではの取り組みを継続できてよかったと感じています。

また、学校の文化祭でジオパークについて学んだ成果の発表を見せてもらい、とても勉強になりました。これを地区の住民にも見てもらえないかという話が出ており、単なる宣伝よりも効果があるのではないかと思います。ただ、どうやって人を集めるかなど課題は残るので、今年はその計画を進めていこうと考えています。

現在、人口減少が進み、子どもの数も年々減っています。特に心配なのは、白嶺の来年度の小学校1年生が0人で、その翌年が2人だという点です。こうなると学校はどうなるのか考えなければならないと思っています。白山市全体では「住みやすい街」として人口が大きく減っていないものの、山間部では子どもがどんどん減っています。この地域でも住みやすさを高める取り組みが必要だと思いますが、具体的に何をすべきかはまだ分かりません。引き続き地区でできることを考えていきたいと考えています。

(市長)

この前も白嶺小中学校で給食を一緒に食べました。9人の6年生と話をしながら、「来年は何人入ってくるの」と聞いたら、「ゼロです」という話をしていました。9人卒業して中学校に行って、入ってくる小学生は0人です。白峰小学校は全校で10人ほどなので、完全複式で、鳥越と河内も小学生が減っています。

白峰は、大学生がしらみね大学村というものをつくって、大学生が常時結構いるので、関係人口が増えています。尾口地区は国際高専がありますし、金沢工業大学の学生さんもいらっしゃいますね。そういう意味では学生さんが出入りしています。また、例えば金沢に家を持ち、尾口にも家があって週末のみ尾口で過ごす、いわゆる二拠点生活をする人も増えており、議会でもしばしば質問されています。

また、空き家問題もよく話題になります。例えば美川地区も空き家が多くなっていますが、業者さんが空き家をリノベーションして、宿泊施設としてインバウンドの外国の方に貸して泊まるだけにしています。食事は自分たちで近くに行行って食べてくださいということにしています。また、白峰では株式会社を作って空き家を改修し、宿泊施設として運営している所もあります。空き家対策もしていかなければならないと思っています。

子どもに関してはどうしても中学、高校ぐらいから、ここから離れてしまうことが多いと思います。昔はみなさん下宿したりしていましたか。

(参加者)

以前は送迎していました。朝5時30分に起きて雪かきし、自分の車を出してバスに間に合わなかった子どもを自分の仕事に遅れても送っていくようなこともありました。

合併後、近年は、両親が平野部で仕事をするようになって、そこから家族全員がそっちに移ることで人口が減っています。

（市長）

知り合いで、森島と中宮に家があるという2拠点で生活している人、土日に中宮に来て野菜を育て、金沢にも家があって行ったり来たりしている人もいます。二拠点生活っていうのも PR していないといけないかなと思っています。

◆ 雪の多い地域への定住は難しく、人口減少が進む中ですが、地域おこしができないかと思っています

（参加者）

夏場はいいですが、冬が大変です。尾口では雪が嫌がられて……まず家を出るために雪かきをしないと運転できませんし。今年は屋根雪降ろしを 3 回くらいして、大変でした。

先ほど人口の話がありましたが、手取川ダムができた当時は尾口村には 1150 人いました。合併するときには 762 人。現在5月末で 350 人です。この先どうなるかなという感じです。ジオパークを絡めて、地域おこしをして生涯ここに住んでもらうことができないかなと思います。

（参加者）

白峰はもちろん雪は多いですが、地区の中で、仕事も見つけられるし、住まいもあります。地域おこし協力隊の方が住み続けて、結婚して定住に繋がることも多いです。

（市長）

白峰の協力隊は、緑のふるさと協力隊と地域おこし協力隊として2人来ています。尾口にも道の駅や観光地があるので、食事に入る方もたくさんいらっしゃると思いますが、そういう意味ではさっき言った花壇などの環境整備は本当に大切だと思います。白山ろくに魅力を感じてお店を開く人もいます。鳥越には喫茶店などがいくつかありますね。

◆ コミュニティバスがより便利になればいいと考えています

(参加者)

いずれ免許の返納ということも考えなければいけません。コミュニティバスが運行していますが、利用しづらいです。特に高齢の方は、バス停までの道に坂があったりするので大変です。また、例えばスーパーに買い物に行ったり病院や郵便局に行ったりするのも、今の状態だと丸1日かかってしまいます。デマンド運行やシフト運行など地域の実情に合った利用方法も考えていかないといけないかなと思います。

地区でどんな協力ができるのかも含めて、良い事例があったら市のほうから教えていただきたいなと思います。

(市長)

予め運行ダイヤが決められておらず、スマートフォンなどで事前に予約し、乗降時刻や目的地を一定程度利用者が決めることができるデマンド型交通も検討しています。ただ、必ず予約が必要になるので煩雑だというご意見もいただきます。デマンド運行は小松市、津幡町、志賀町などが行っています。

本市のコミュニティバスは、予め定められたルートを決められた時刻に運行する方式を採用しているため、個人個人の移動需要に合わせたルート・ダイヤにするには限界があります。

車両に関してはいろいろなパターンがあります。個人の車で送迎していただくやり方もあれば、タクシー会社のジャンボタクシーのように車を希望の場所に回していただくやり方もあります。ただサービスが良くなると料金がやはり高くなってしまいます。

買物についてはコープいしかわさんやJA 白山さんなど、幾つかお店が車で回っていらっしゃると思います。

他の地区の地域コミュニティ組織と企業との連携事業で、小型のバスを出して、皆さんを乗せてコミセンに集まってもらって、ファッションセンターしまむらさんや無印良品さんにお店を開いてもらっているところもあります。

(市長)

様々なご意見ありがとうございます。先ほども言いましたが、やはり地区の環境について、皆さん、本当によく守っていただいています。市としても県や国とも、連絡・連携をとりながら様々なことを考えていかなければいけません。今日はお話を聞かせていただきまして誠にありがとうございました。